


分野	62	都市経営	通番 147
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市長と語る対話のわ事業		会計	款	項	目	2,266	広報発信課
			一般	2	1	2		
事業の概要								
市民や団体と市長の直接対話を通して、市の現状や課題、ニーズを把握し、広く行政施策に反映させながら、市民と共に考え、まちづくりを進めます。								

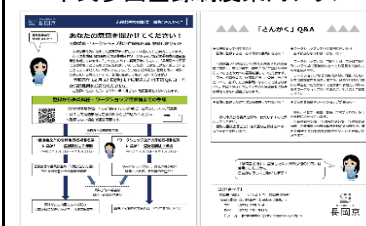
令和2年度の取組							
D (取組)	指標	市長と語る対話のわの開催回数				単位	回
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	15回(平成27年度)	目 標	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上
		実 績	20回	19回	19回	18回	10回
<ul style="list-style-type: none"> ・市長と語る「対話のわ」を年10回開催しました。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、集合型で開催する際はテーマを絞ることで短時間としたり、少人数でソーシャルディスタンスを確保したりするなどの対策を行いました。 ・集合型での開催が困難であった4月には、市ホームページやメール等で質問や意見を募集し、市長が出演する動画の配信等で質問にお答えする新たな手法で市民との対話を行いました。 ・開催の際は、広報紙、市ホームページ、公式フェイスブック、ツイッターなど、状況に応じた媒体を活用し、広報を行いました。 					 <p style="text-align: center;">対話のわの様子(オンライン)</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	達成度合	—			—
課題等	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策など、本市の様々な分野の施策や課題について対話を行いました。参加者との意見交換の時間を設けることで、市民や団体と意識共有が図られ、本市の課題やニーズを把握することができました。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年に比べ開催回数は減少しましたが、ウイズコロナ時代の新たな手法として、非接触型の情報共有ツールであるオンラインやFMおとくに、市広報紙を活用した方法でも開催し、市民との対話の機会を創出できました。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くと予想される中で、市民や団体と市長との対話の機会を確保するためにも、感染拡大防止に対応した「新しい行政様式」での市長と語る「対話のわ」の開催手法をさらに検討していく必要があります。 		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの集合型に加え、オンラインや市広報紙等を活用した手法による開催など、状況に応じた様々な手法で市長と語る「対話のわ」を行い、市民と市長との対話の機会を確保していきます。 ・対話により得られた市民ニーズ等については関連部署へ情報共有し、市民と共に考えるまちづくりを進めていきます。

分野	62	都市経営	通番 148
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	市民公募委員推進事業		会計	款	項	0	自治振興室
			一般	2	1		
事業の概要							
無作為抽出方式による「市民参画登録制度」を活用し、計画策定等により幅広い市民の参画を推進します。 あわせて、各種団体推薦枠を見直すことにより、団体役員の負担軽減を図ります。							


令和2年度の取組							
D (取組)	指標	市民公募委員の参画がある審議会等の比率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	95.0	100	100	100	100
	89.7(平成26年度)	実績	87.1	87.9	88.9	93.1	100.0
<ul style="list-style-type: none"> あらゆる分野で市民が意思決定に参画できるしくみをつくり、市民の意見をまちづくりに反映するため、審議会等の設置・委員改選時に市民公募委員の参画を確認する「審議会シート」を各課から提出してもらい、公募委員の参画を推進しました。 「市民参画登録制度」について庁内インフォメーションで周知して活用促進することで、審議会等における市民参画・ワークショップへの市民参加を推進しました。 				市民参画登録制度案内チラシ			
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和2年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度末現在、行政委員会と休会中及び審議内容に専門的な知識を必要とする審議会等を除く26の審議会等のうちすべての審議会等で公募委員が採用され、採用率は100%となりました。 令和元年度2月に市民参画登録制度名簿更新を行い、公募委員候補者名簿に22人、ワークショップなどの参加候補者名簿に42人登録いただいています。名簿を利用し、令和2年度中に7人が委員に就任しました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 公募委員の採用にあたり、一般公募だけではなく登録名簿を併用できることが周知されていません。 			

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<ul style="list-style-type: none"> 審議会等の所管課に対し、改選のタイミングで公募委員の採用を促し続けます。 市民参画登録制度を庁内インフォメーション等を活用し庁内に周知します。
1: 計画通りに進めることが適当	

分野	62	都市経営	通番 149
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	コミュニティFM事業の推進		会計	款	項	-	広報発信課
			-	-	-		
事業の概要							
<p>市政情報や市民活動情報など、誰もが発信者として参加できるプラットフォームの整備を目的に、その情報発信基盤となりうるコミュニティFMの開局を支援します。また、情報発信メディアとしての効果的な活用を推進し、市内外に向けた市の魅力発信を行います。</p> <p>あわせて、災害時における防災協定の締結など、市民の安心・安全を守るために連携強化を図ります。</p>							

令和2年度の取組								
D (取組)	指標	コミュニティFM開局支援				単位	—	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	平成30年度 新規事業	目標	/				/	
		実績	/				/	
	指標	コミュニティFM開局支援				単位	件	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
平成30年度 新規事業	目標	/				/		
	実績	/				/		
<p>・ 毎週金曜日に「さわやかおとくに」内で放送している長岡京市の情報発信番組「かしこ暮らしっくアワー」では、誰もが“発信者”として参加できる情報プラットフォームとして機能するよう、市民や市民団体の参画を積極的に図りました。</p> <p>・ 災害発生時に緊急情報が放送できるよう、割り込み放送訓練を実施しました。</p> <p>・ SNSを使って市民からリアルタイムで質問を募集し、放送を使って回答する、ラジオメディアの双方向性を生かした「対話のわ」を実施しました。</p>								
								
ラジオの収録の様子								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
達成度合	C: 目標の一部を達成できなかった	達成状況	<p>・ 市政情報を親しみやすく発信する「かしこ暮らしっくアワー」を50回放送しました。コロナ禍であったことから、市民をゲストとしての放送は19回、参加した延べ人数は26人と昨年より減少しましたが、リスナーからの質問を受け付けるなど双方向性のある番組を企画し、コロナ禍における情報コミュニケーションツールの1つとして機能するよう積極的に活用しました。</p> <p>・ FMおとくとに連携して、災害時緊急放送訓練やシェイクアウト訓練などを実施し、市民の防災意識とFMおとくとへの認知度向上を図りました。</p>	
課題等			<p>・ 災害時にコミュニティFMを最大限活用するためには、平時からコミュニティFMを聞いてもらうことが必要となります。コロナワクチンのお知らせなど、広く市民に周知する必要がある情報はFMも活用して発信するなど、大切な情報が得られるツールの1つであることを今後も浸透させていく必要があります。</p> <p>・ “長引くコロナ禍における情報発信ツール”としてのあり方を検討するとともに、SNSやネットなどと連携した事業を展開していくことで、情報プラットフォームとしての役割を定着させていくことが必要です。</p>	

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<p>・ 市の番組である「かしこ暮らしっくアワー」で市民及び市民団体の積極的な参画を図り、FMおとくとへの認知度を向上させるとともに、関係する人口を増加させます。</p> <p>・ 市民の安心・安全を守るため、災害時にラジオで放送すべき情報を集約し、確実に発信していきます。</p> <p>・ 人が集まること自体が難しいコロナ禍において、双方向で活用できるメディアであることの強みを生かし、SNSやネットなどを活用した番組展開で、市の施策や事業との連動性を高めるとともに、連携を強化していきます。</p>